

「神奈川の水準高い」 片山担当相 藤沢を視察

最先端技術を日常の暮らしに活用する政府の新たな国家戦略特区制度「スーパーシティ構想」で、片山さつき地方創生担当相は15日、神奈川が有力な候補地の一つになるとの認識を示した。藤沢市のスマートタウンを視察後、神奈川新聞の取材に「全国のスマートシティの中でも水準が高く、進み方も早い。住民の合意形成もできる環境にある」と述べた。

スーパーシティは規制改革で人工知能(AI)やビッグデータを導入し、自動運転をはじめドローン配達、キャッシュレス

スーパーシティ構想

決済、遠隔診療などを取り入れて生活する地域を2030年ごろまでに実現する構想。政府の有識者懇談会が来年1月に最終報告を策定、同年夏以降に公募や選定に着手し、全国で数カ所を選ぶ。

片山氏は、最先端省エネ技術などを取り入れた藤沢サステイナブル・スマート・タウン(FSSIT)を訪れ、「未来の社会づくりに向けた意識を住民と関係企業が共有している。ここまで進んでいるのはすごい」と評価。プロジェクト推進に欠かせない住民参加によるデータ取得の環境やエリア的な優

位性が整っているとの認識を示した。

さらに、綱島スマートタウンが整備された横浜やスマートシティ構想を研究している鎌倉市を念頭に「距離が離れていない。連携もある」と指摘。神奈川は「進取の気性があり生活の質向上に向けた県民意識も高い」とし、将来的な可能性に期待を寄せた。

一方、国家戦略特区に絡む加計学園問題を踏まえ、選定過程では透明性の確保が不可欠と強調。「スーパーシティの選び方は点数制でガラス張りで行く」と述べた。国や県によると、同構想には黒岩祐治知事が意欲を示しているほか、福岡市や神戸市、和歌山県など全国の複数自治体に関心を寄せているという。

(香川 直幹)